



くらまてんぐ

第3巻

発行 第9回地方自治研究全国集会
速報『くらまてんぐ』編集委員会

〒604-8854
京都市中京区壬生仙念町30-2 ラポール京都5F
TEL 075-801-8186/FAX 075-801-3482



京の四季⑤
静かな里山の秋 美山

秋

地域経済を再生 するための地域政策

ナイター講座
1

地域再生のカギは 中小企業と住民の共同

京都公会館で開かれたナイター講座1では、市民を含め約100人が参加しました。

講師の京都大学教授の岡田知弘さんは、「地域を発展させるのは、グローバルイズムの短期的な金銭の儲けではなく、地域に根ざした企業や住民だ。いまままで付き合った事のないような地域の企業や団体が共同し、地域内で再投資を繰り返す事が地域住民の生活を維持することになる。地域企業と住民との共同で地域の会を作り連帯していきましょう」と訴えました。



【参加者からは】
色々な地域の話が聞けました。地域住民の1人として頑張りたい。
(左京区の女性)
地域経済を元気にし、まもり発展させるのは何かが改めて理解できました。
(50代男性)

1200人を超える参加者の大きな熱気で始まった地方自治研究全国集会は、全体集会終了後、「地域経済を再生するための地域政策」「社会保障・社会福祉の『構造改革』の現局面」「地方分権改革の構図と争点」の3つのナイター講座と、青年企画「見つけよう。働くこと。とことん!」や「ベリ場」が行われ、真剣に講義に聞き入り、仲間の話に耳を傾けました。

見て、聞いて、学んで、明日へ

3カ所に分かれてのナイター講座

ナイター講座2

に参加して

時代背景を分かりやすく話していただき、現在の社会保障の問題をとらえなおすことができました。生活保護のケースワーカーとして働いていますが、2200億円の社会保障費削減で高齢者や母子世帯にも大きな影響がでています。また、浦安市でも来年3月に公立病院が民間委託されることになり、人ごとではないと感じました。



千葉県・浦安市職労
柳澤 広司さん



社会保障・社会福祉の 「構造改革」の現局面

ナイター講座
2

社会保障を前進させる のは私たちの運動

会場いっぱい131人が参加し、東北大学日野秀逸教授の講演に耳を傾けました。日野教授は、日本ではアメリカや大企業の要請で政府が社会保障の責任を放棄してきたとし、特に「構造改革」のもとで社会保障削減が押し付けられ、労働者の非正規化で企業が責任を投げ出したと指摘。自治体病院が経営悪化した要因は政府にあるにも関わらず、それを自治体と住民に負わせようとする政府の姿勢を批判しました。

最後に、「赤字国債亡国論」はまやかしであり、社会保障を前進させるのは運動であること、四半世紀ぶりの医師養成増加などの例をあげながら、今まさにその成果が表れていると強調しました。

地方分権改革の 構図と争点

ナイター講座
3

憲法に基づいた自治体 の公共性確立を



神戸大学二宮厚美教授は、中央(権力国家)、道州(土建国国家)、基礎自治体(福祉国家)と分業で役割を担うという分権国家思想が改革路線としてあり、自立・自己責任の体制づくりと市町村合併から道州制へむかう手法が導入されていること、また、また新たに出てきた社会ガバナンスや多元的供給主体論なども新自由主義的手法と変わらないことを説明しました。

一方でNPMの失敗例や、指定管理者・市場化テストなどで請け負っても低価格の入札に耐えられず、業者が公契約条例を学び出している状況が述べられ、憲法に基づいた自治体の公共性を確立していくことの重要性を確認する講座となりました。

